

第3部 平成27年度航空機騒音 調査結果

(長崎空港・大村飛行場周辺)

第3部 平成27年度航空機騒音調査結果（長崎空港・大村飛行場周辺）

長崎空港周辺

1. 長崎空港の現況

長崎空港は、国土交通省が所管し、海上埋立地の滑走路（旧長崎空港B滑走路）と本土側の滑走路（旧長崎空港A滑走路）の2本の滑走路があったが、平成23年に本土側の滑走路が防衛省へ移管されたため、現在は海上埋立地において民間航空機が離発着する空港となっている。

（1）所在

長崎空港は大村湾内の大村市箕島（北緯32°55′、東経129°54′、標点の標高2.4m）にあり、本土側とほぼ平行に約1km、南側滑走路端からの飛行コース延長線上約11kmは、海で隔てられている。

（2）長崎空港の概要

長崎空港の概要は次のとおりである。

空港の種類	国管理空港（旧第2種A空港）	
空港面積	1,756千㎡	
空港施設	着陸帯	3,120 m×300 m
	滑走路	3,000 m×60 m
	誘導路	3,531 m×9~34 m
	エプロン	137,001 ㎡
	B747 級	7 バース
	B767 級	2 バース
	DHC 8 級	2 バース
	小型機	5 バース

（3）航空路線と就航機種

長崎空港における国内路線は、表3-1に示すように平成28年11月1日現在、1日当たり9路線36便である。この他に、国際線として週2便の上海定期便（就航機種：A319）、週4便のソウル定期便（就航機種：A321-200）が運航されている。

また、上記のほか、大型機等による訓練及び審査のための練習飛行が実施されている。なお、空港の運用時間は午前7時00分から午後10時00分までの15時間となっている。

表3 - 1 国内路線

路線都市	便数	機種	路線都市	便数	機種
東京	14便	B737-800、B777-200	沖縄	1便	B737-800
			対馬	4便	DHC 8-200
			福江	3便	DHC 8-200
名古屋 (中部)	2便	B737-800	壱岐	2便	DHC 8-200
大阪 (伊丹)	7便	B737-500、E170 B737-800			
大阪 (関西)	1便	A320-200			
神戸 (神戸経由東京)	2便	B737-800			
合計 9路線 36便					

(注1) 平成28年11月1日現在。

(注2) 便数、機種については月により変更がある。

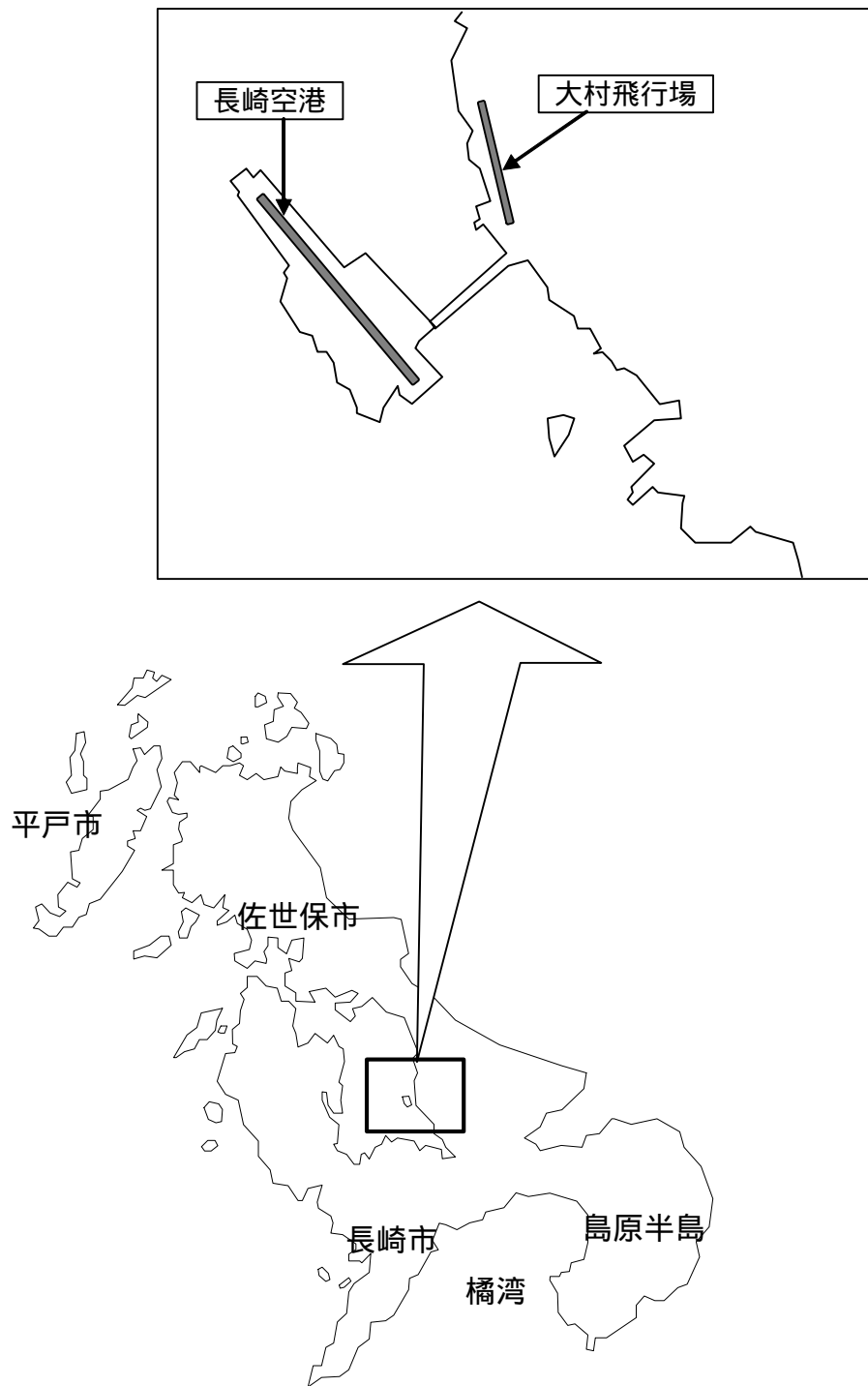


图3 - 1 長崎空港·大村飛行場位置图

(5) 乗客及び貨物空輸実績

長崎空港の利用実績の経年変化を図3 - 2に示す。

平成27年度の国内線乗客数は3,058千人(前年度比104.3%)であり、国際線乗客数は50千人(前年度比65.1%)であった。

国内線貨物量は、平成27年度は、13,563トン(前年度比100.6%)であり、国際線貨物量は944トン(前年度比157.0%)であった。

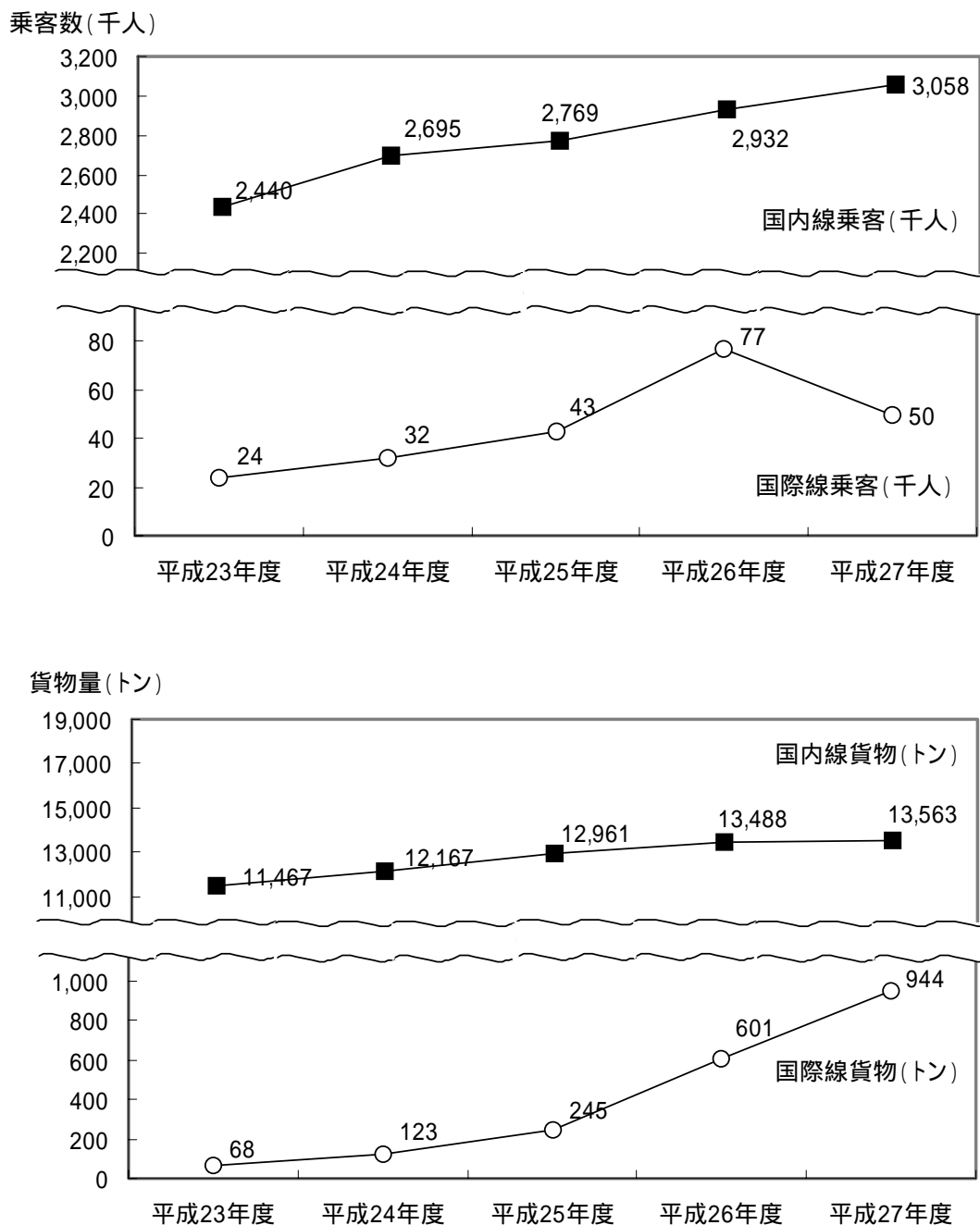


図3 - 2 乗客数及び貨物空輸実績(国内線・国際線)

(注) 国際線乗客とは、国際線の定期路線(長崎空港寄港分を含む。)及びチャーター便等の乗客数をいう。

(6) 着陸回数及び離着陸の方向等

民間定期航空路等を中心とする滑走路の着陸回数の推移は表3-2に示すとおりである。
平成27年度着陸回数は、15,932回(前年度比99.6%)であった。

表3-2 着陸回数の推移

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
年 間	17,701	15,649	15,591	15,993	15,932
1日当り	48	43	43	44	44

(空港管理状況調書(国土交通省航空局)より)

長崎空港における着陸は、風向等にもよるが、おおむね諫早市方向より、また、離陸は川棚町大崎半島方向へととなっている。待機空域は大村湾上空に設定されている。

2. 調査の概要

長崎空港周辺の航空機騒音の測定監視は、大村市、諫早市の2市により滑走路が供用開始された昭和50年から実施している。

平成27年度は、大村市4地点、諫早市6地点の合計10地点で測定を実施した。

(1) 調査実施機関

大村市、諫早市

(2) 調査地点及び調査期日

平成27年度の調査地点及び調査期日は表3-3に示すとおりであり、調査地点は図3-3に示す。

(3) 調査方法

航空機騒音の測定及び評価は、「航空機騒音に係る環境基準について」(昭和48年12月27日、環境庁告示第154号)により定められた方法に基づいて実施した。

なお、平成25年4月1日より、環境基準の評価指標は、従来のWECPNLより L_{den} [デシベル]が採用されている。

(4) 測定機器

ア 普通騒音計	リオン	NA-11、NA-20、NL-06、NL-22
イ 自動演算騒音計	リオン	NA-33
ウ 航空機騒音識別装置	リオン	EF-31
エ レベルレコーダ	リオン	LR-04、LR-06
オ 騒音収録装置	リオン	K-8921

表3 - 3 調査地点及び調査期日

市名	調査地点	滑走路中心点よりの 方位及び距離		調査期日 平成27年度	環境基準	
					類型	基準 (L _{den})
大村市	大村市役所	ESE	4.5km	2.27 ~ 3.5		57 デシベル
	前舟津公民館	SE	4.7km	2.19 ~ 2.25		
	釜川内	SE	6.3km	1.5 ~ 1.11		
	三浦出張所	SE	9.2km	1.13 ~ 1.19		
諫早市	真津山小学校	SE	12.2km	8.21 ~ 8.29		57 デシベル
	久山町住宅	SE	11.6km	9.10 ~ 9.16		
	若葉町住宅	SE	12.8km	12.12 ~ 12.18		
	土師野尾町公民館	SE	15.7km	8.22 ~ 8.30		
	久山台住宅	SE	12.2km	9.10 ~ 9.16		
	多良見町喜々津東小学校	SE	11.2km	12.10 ~ 12.16		



図3 - 3 長崎空港周辺の騒音測定地点

3. 調査結果

平成27年度の環境基準の適合状況を表3-4に示した。

表3-4 環境基準の適合状況

市名	調査地点	用途地域	環境基準		測定結果 L _{den} (7日間)	適合状況
			類型	基準値 L _{den}		
大村市	大村市役所	住居地域		57 デシベル	46 デシベル	適合
	前舟津公民館	住居地域			44 デシベル	適合
	釜川内	未指定			42 デシベル	適合
	三浦出張所	未指定			44 デシベル	適合
諫早市	真津山小学校	住居地域			47 デシベル	適合
	久山町住宅	市街化調整区域			49 デシベル	適合
	若葉町住宅	住居地域			50 デシベル	適合
	土師野尾町公民館	市街化調整区域			46 デシベル	適合
	久山台住宅	住居地域			43 デシベル	適合
	多良見町喜々津東小学校	住居地域			51 デシベル	適合

4. まとめ

平成27年度は長崎空港周辺の大村市4地点、諫早市6地点の計10地点において、連続7日間の航空機騒音測定を実施した。

結果の概要は以下のとおりである。

- (1) 大村市、諫早市は、昭和58年6月1日に航空機騒音に係る環境基準の類型指定がなされているが、平成27年度の調査結果は全ての地点において環境基準に適合していた。
- (2) L_{den}(7日間)が最も高い地点は、諫早市多良見町喜々津東小学校で51デシベルであった。

大村飛行場周辺

1. 大村飛行場の現況

大村飛行場は、昭和35年に「大村空港」として開港してから、民間の旅客機の離発着及び自衛隊等に使用されていたが、昭和50年に海上埋立地の滑走路（旧長崎空港B滑走路）が供用を開始して以降は、「長崎空港A滑走路」として海上自衛隊のヘリコプター及び民間小型機の訓練飛行等に使用されていた。現在は平成23年に国土交通省から防衛省へ移管されたことに伴い、長崎空港A滑走路としての供用は廃止され、「大村飛行場」として管理されている。

(1) 所在

大村飛行場は大村市の中心街（大村駅前）より北西へ約3km離れた大村湾沿いの大村市今津町に位置し、大村飛行場の沖合約1kmのところ長崎空港B滑走路がある。

(2) 大村飛行場の概要

大村飛行場の概要は次のとおりである。

飛行場面積	266 千 m^2	
飛行場施設	着陸帯	1,320 m \times 90 m
	滑走路	1,200 m \times 30 m
	誘導路	92 m \times 18 m
	エプロン	11,200 m^2

(3) 大村飛行場におけるヘリコプター等の飛行形態

大村飛行場は、海上自衛隊、県警察本部、県危機管理課のヘリコプターが利用している。

海上自衛隊所属のヘリコプターによる訓練飛行の経路は大村湾上に設定されており、離発着時のコースはいずれも海上方向となっているが、滑走路上でのヘリコプターの飛行形態は、

通常の離発着（海上方向より飛来して着陸及び離陸後直ちに海上方向へ飛行等）

タッチアンドゴーを含む滑走路上通過（滑走路5～30m上空）

ホバリングによる滑走路上での停止や水平移動（滑走路上5～30m上空）

等、きわめて多様なものとなっている。

2. 調査の概要

平成27年度は、大村飛行場周辺の6地点において14日間の連続測定を実施した。

なお、全ての地点で年1回の測定を実施した。

(1) 調査実施機関

大村市

(2) 調査地点及び調査期日

平成27年度の調査地点及び調査期日は表3-5に示すとおりであり、調査地点は図3-4に示す。

(3) 調査方法及び評価方法

航空機騒音の測定及び評価は、「航空機騒音に係る環境基準について」（昭和48年12月27日、環境庁告示第154号）により定められた方法に基づいて実施した。

なお、平成25年4月1日より、環境基準の評価指標は、従来のWECPNLより L_{den} [デシベル]が採用されている。

(4) 測定機器

ア	普通騒音計	リオン	NA - 20
イ	自動演算騒音計	リオン	NA - 33
ウ	レベルレコーダ	リオン	LR - 04
エ	発生音自動収録装置	リオン	K - 8921

表3 - 5 調査地点及び調査期日

市 名	調 査 地 点	大村飛行場滑走路 中心点よりの方位 及び距離	調 査 期 日 平成27年度	環 境 基 準	
				類 型	基 準 (L _{den})
大 村 市	富の原小学校	NE 1,200 m	10.16 ~ 10.29		57 デシベル
	古賀島町住宅 (A)	NNE 180 m	2.3 ~ 2.16		62 デシベル
	古賀島町住宅 (B)	SE 90 m	12.11 ~ 12.24		
	古賀島町住宅 (C)	NE 160 m	11.26 ~ 12.9		
	古賀島町住宅 (D)	NE 90 m	3.15 ~ 3.28		
	古賀島町住宅 (E)	ENE 440 m	10.1 ~ 10.14		

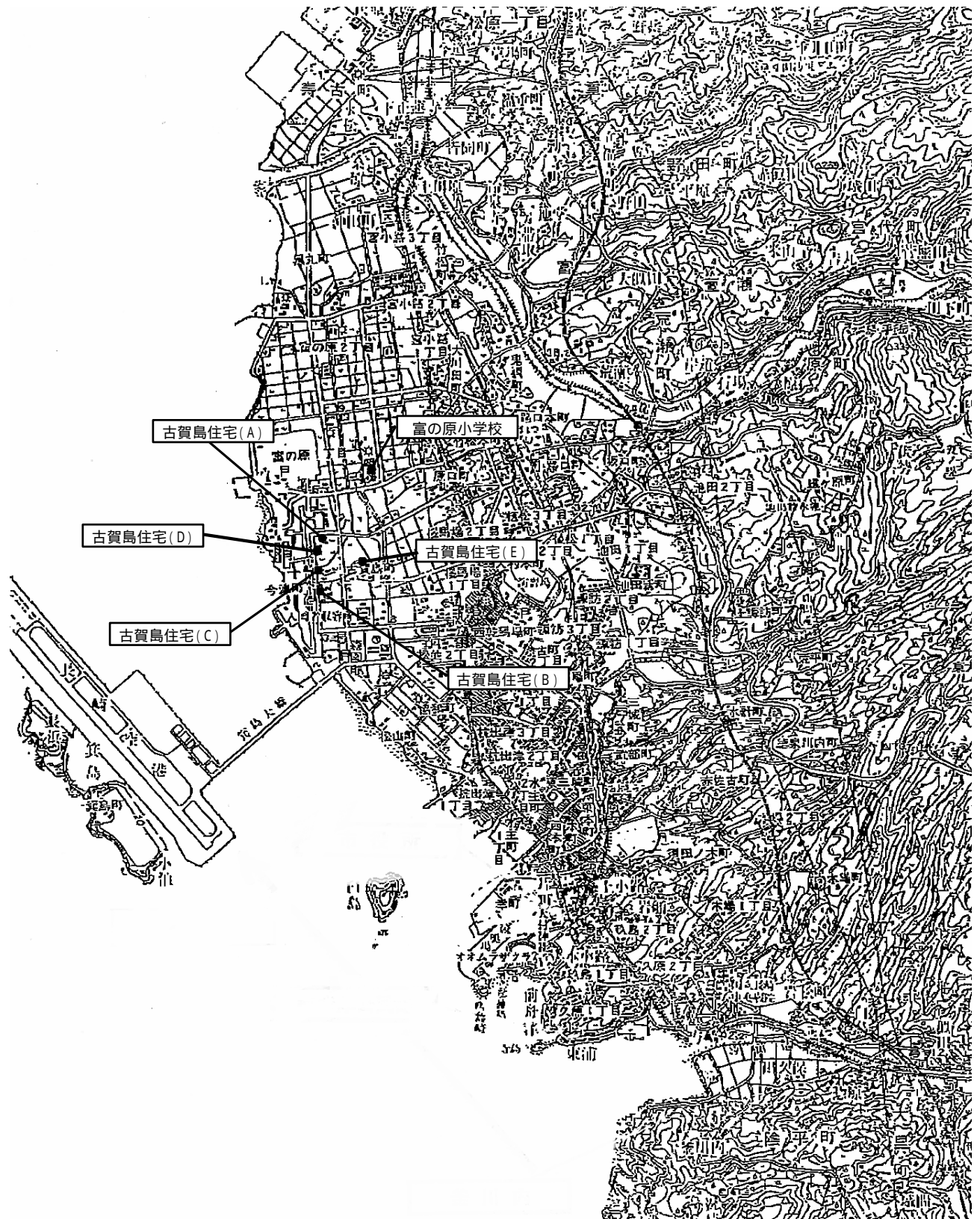


図3 - 4 大村飛行場周辺の騒音測定地点

3. 調査結果

平成27年度の環境基準の適合状況を表3-6に示した。

表3-6 環境基準の適合状況

市 名	調査地点	用途地域	環境基準		測定結果 L _{den} (14日間)	適合状況
			類型	基準値 L _{den}		
大 村 市	富の原小学校	第1種住居地域		57 デシベル	48 デシベル	適合
	古賀島町住宅 (A)	準工業地域		62 デシベル	64 デシベル	不適合
	古賀島町住宅 (B)	準工業地域			63 デシベル	不適合
	古賀島町住宅 (C)	準工業地域			62 デシベル	不適合
	古賀島町住宅 (D)	準工業地域			64 デシベル	不適合
	古賀島町住宅 (E)	準工業地域			48 デシベル	適合

4. まとめ

平成27年度は、大村飛行場周辺における航空機騒音（主にヘリコプター騒音）の実態を把握するため、6地点について14日間の連続測定を実施した。

測定の結果、2地点（富の原小学校、古賀島町住宅（E））においては、航空機騒音に係る環境基準に適合したが、4地点（古賀島町住宅（A）、（B）、（C）、（D））においては不適合となった。